



芸術文化の向上・発展に貢献

金多豆蔵人形一座が表彰状

金 多豆蔵人形一座(主宰・木村巖)が青森県文化賞を受賞し、11月9日(水)、役場を訪問し小野町長に報告しました。県文化賞は、県の芸術文化の向上・発展に貢献した個人、団体に与えられます。

表彰を受けて木村氏は「立派な賞をいただいて身の引き締まる思い。これからも金多豆蔵を広めていきたい」と述べました。町長からは「大変素晴らしい。わが町の誇りである金多豆蔵を今後がんばっていただきたい」と激励の言葉をおくりました。

中泊町でもコシヒカリ

ばろかだる会が訪問

若手農業者で結成されたばろかだる会(会長・秋元正和)が11月9日(水)、小野町長を訪れ今年収穫した「中泊町産コシヒカリ」を手渡しました。通常、福島県や新潟県より南で作付けされるコシヒカリ。当町でも収穫しようと取り組み、今年で2年目となりました。

コシヒカリを受け取った小野町長は「食べるのが楽しみだ。収穫量が多くなったようでなにより。来年もがんばってほしい」と激励しました。秋元会長は「中泊町で1番美味しいと言われるような米を作るために、これからも努力していきます」と意気込みを話しました。



一粒一粒を大切に

中里・武田小が大豆収穫体験

グリーンツーリズムかけはしが、子どもたちに収穫の喜びを体験してもらおうと、10月24日(月)田中恵津子さん(若宮)の倉庫で大豆収穫体験が行われました。収穫体験に参加したのは、中里小学校2年生と武田小学校の1・2年生らで、収穫が始まるのを楽しみにしていました。始めに児童らは列になり、シートに広げられた豆殻のついた枝を踏み歩き、鞘から豆を取り出しました。

児童らは楽しそうにシートの上を行ったり来たりしていました。その後、一粒一粒を拾い集めていました。児童らは「大豆を一粒ずつ拾うのは大変だった。早く食べてみたい」と笑顔で話していました。

なかどまりの美味しいが勢揃い

ピュアで味覚市開催

町農産物加工販売所「ピュア」で11月6日(日)、なかどまりまるっと味覚市が開催され約1000人が来場しました。オープニングでは、公民館教室のヒップホップグループによるダンスで会場を盛り上げました。会場では、いいなかどまりクイズ大会、お米やサザエの重さをあてよう大会などが行われ、参加者らは真剣な表情で重さを量っていました。秋の味覚鍋の振る舞いやゼリーの試食会には、多くの人が並び、舌鼓を打っていました。また、ピュアお漬物決定戦P-1グランプリが行われ、来場者はお漬物を試食し美味しいと思ったものに投票しました。優勝したのは、かぶの塩漬けの漬物を出した青山康子さん(今泉下)でした。青山さんは「優勝できてうれしい。漬物のおいしさをもっとたくさんの人に広めたい」と話していました。





ハッピー・ハロウィン!

子ども会育成連合会ハロウィンパーティー

ハロウィン前日の10月30日(日)、日本海漁火センターでハロウィンパーティーが開かれました。会員とその家族ら34人が集まり、鈴カステラをチョコレートなどでデコレーションしたロリポップづくり、工作、ゲームなどを楽しみました。

小泊地域で英語を教えているマイケル・ドニー先生は、「箱の中身は何だろう？」ゲームを企画し、子ども達はどきどきした様子で箱に手を入れていました。びっくりして声をあげる子もいました。パーティーの最後はピニャータ(お菓子の入ったくす玉)たたきをし、子どもたちは両手にたくさんのお菓子を持って満足そうな顔を見せていました。

スクール・コンサート!

小泊小で県警音楽隊が演奏会

青森県警察音楽隊が10月25日(火)に小泊小学校へ来校し、スクール・コンサートを行いました。たくさんの人に聴いて欲しいという学校の意向から、北光寿大学、小泊中学校、こども園こどもり、保護者らも招き、児童を合わせて約180人でコンサートを楽しみました。隊員たちが旗を使った演技や、動きながら演奏するドリルを披露すると、会場からは「すごい」という声があがっていました。

指揮者の体験をした児童たちは、「ちょっと難しかったけれど、楽しい。もっとやりたかった」と嬉しそうに話していました。



休業前でも大盛況

道の駅で秋の味覚まつり

竜泊ラインの冬季閉鎖に合わせ休業する道の駅ポイントマリで11月3日(木)、なかどまりスルメイカ秋の味覚まつりが開催されました。あいにくの雨模様となりましたが、約500人が来場し、格安での活ダコかまゆで販売やのしイカ体験、ホタテの網焼き、イカのお好み焼きとメバルの白煮汁の振る舞いを楽しみました。来場者からは「竜泊ラインの閉鎖前に寄ってみた。こんなにおいしいものが食べられて良かった。また来年もきたい」と嬉しそうに話していました。



迫力のレース

東北・北海道馬力大会

東北・北海道馬力大会が10月30日(日)、尾別の会場(有竹内産業敷地)で行われ、馬の愛好家約1000人がレースを楽しみました。

この大会には、県内や北海道から約70頭が参加。年齢や馬体の大きさなどの各部門にわかれ、坂がある約160mのコースを駆けました。馬の引く重りは最大260貫(約千キロ)で、威勢のいい掛け声とむちで気合を入られた馬が、レース終盤の坂を一気に駆け上がると会場には歓声と拍手が起きました。

